

令和3年度 県立水海道第一高等学校 自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・将来を担う人材を育成する学校 ・地域に貢献する学校 				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標		達成状況	
<p>○いばらき高等学校学力向上総合推進事業研究指定校として3年間の研究を通し、「わかる授業」を展開すべく校内相互授業参観、中学校での授業参観等を実施し授業の工夫・改善を推進し、成果が見られるようになった。しかし、目標とする家庭学習時間の達成には至っていない。そのため、今後は3年間を見通した指導法・指導体制の改善を図り、生徒の学習意欲を高めることで計画的に家庭学習を進め、学習時間の増加につなげたい。</p> <p>○個別面談・日々のコミュニケーションを通して生徒と教員の信頼関係は構築されているが、発達に課題がある生徒やメンタル面で不安を抱える生徒の増加に伴い、スクールカウンセラーはもちろん専門家との情報交換を実施することが出来た。今年度も継続していく。</p>	<p>授業の充実と学習習慣の確立</p>	① 言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう授業の工夫・改善をし、「わかる授業」を展開するための公開授業の充実を図る。	B		
		② 単位制のメリットを活かし、生徒各自の興味・関心・進路希望等に応じた科目を学習させる。特に、数学科・英語科および学校設定科目においては少人数授業を展開し、きめ細かな指導を充実させる。	B		
		③ 自学自習の習慣化を図り、自主学習時間を増加させる。自主学習時間の目安を、1・2年次3時間以上、3年次5時間以上とする。	B		
		④ 生徒の進路希望実現のため、平日・長期休業中における組織的・計画的な課外および全員参加による土曜課外を実施する。	B		
		⑤ キャリア教育としての大学見学会や進路希望別ガイダンス等を実施する。	B		
<p>○部活動加入率が高く活発に活動しており、多くの部活動で良い成績を残している。その反面、委員会活動においてはより自主的な活動を目標に支援していく必要がある。</p> <p>○地域貢献としてのボランティア活動に部活動単位・個人単位で参加している生徒が増えつつある。より積極的な活動が期待される。</p> <p>○積極的な広報活動をすすめ、保護者からの信頼に応え、本校教育活動への理解を深める。</p> <p>○令和4年度の中高一貫教育校の開設を控え、新たな校務分掌の見直しと、そのための情報収集及び情報の発信等広報活動に努めるとともに、教職員の働き方改革についても推進する。</p>	<p>基本的生活習慣の確立</p>	⑥ 登校指導等を通して基本的生活習慣の確立を図り、皆勤生徒数の増加を図るとともに、海高生として品位ある行動を確立させる。	B		
		⑦ ・担任と生徒による個別面談を通して一人一人の悩みや不安に寄り添い、生徒理解に努める。(年間3回以上) ・教育相談体制を充実させ専門家の積極的・効果的な活用と関係機関との連携に努める。	B		
		⑧ ・部活動やホームルーム活動、学校行事を通して、明るく豊かな健康作りや体力作りを実践し、生涯にわたるスポーツに親しむためキャリアパスポートを活用する。 ・HR活動・生徒会活動・各種委員会活動の活性化および自主的な活動を支援しながら、人間関係形成・社会形成能力を高める。	B		
		⑨ ・学校説明会、ホームページの定期的な更新および広報紙等を通して広報誌等を通して中学校開設に係わる情報を含めて積極的に発信する。 ・地域との連携を推進し、生徒の積極的なボランティア活動を推進する。	A		
		⑩ 効率的な業務を実現し、高い成果をあげられるような工夫に努める。	B		
三つの方針		具体的目標		評価	次年度(学期)への主な課題
<p>「三つの方針」 (スクール・ポリシー)</p>	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>将来を担う、地域に貢献する人材の育成</p>	A	<p>A</p> <p>卒業時に望まれる姿から逆算した、授業等に取り組む目標の設定</p> <p>教育活動のビジョンを学校外の関係者・諸機関と共有するための体制構築</p> <p>入学希望者や中学校関係者に対し、学校が期待する生徒像を明示</p>	
	<p>「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)</p>	<p>単位制の特徴を生かして、幅広い分野に関心意欲を持たせて、進路実現につなげる</p>	A		
	<p>「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)</p>	<p>高い進路目標を設定し、その実現を目指して主体的に日々努力する生徒</p>	A		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	国語を適切に理解し、表現する能力を育成する授業を実践する。	観点別学習状況評価を充実させ、学習意欲と確かな学力の向上を図る。 ①②③④	B	A	今年度はICT機材を活用した授業の工夫をするとともに、休校期間中の動画配信やオンライン授業も実施した。また感染症対策を行いながら生徒同士が意見交換し能動的に学習できる機会を設けてきた。次年度もタブレットを活用した授業の研究を進めたい。 考査問題については、今年度に引き続き大学入試共通テストを意識した作問に取り組みたい。
			授業形態を工夫し、生徒の能動的な活動を促す場面の設定を行う。 ①②③	A		
			既習教材の要約を通じて、文章構成を意識して評論文を読解する力を養う。 ①②	A		
			問題演習を行い、文法や単語の知識を解釈に活用する力を養う。 ①②	A		
	地歴公民	主体的・対話的で深い学びを実践し、現在の活動内容の深化を図る。	生徒が授業を通して知識を整理し、考え方を深めることができるよう、積極的にグループワークやリフレクションを導入するとともに、ICT機器を活用した授業を展開する。 ①②③	A	A	休校期間中のオンライン授業を含め、ICT機器を活用した授業を実施することができた。授業等を通じて基礎的知識を修得させるようつとめたが、論理的に自らの思考を表現させる力を修得させるためには、更なる工夫が必要である。
			授業等を通して各事象の基礎的知識を身に付けさせるとともに、論理的に自らの思考を表現することができる力の育成を図る。 ①②③⑤	B		
	数学	基礎力の向上に努める。	習熟度別指導やグループ学習を使い分け、学習意欲を喚起し、基礎力の養成を徹底する。 ①②③	B	B	ICT機器の活用を通して、学習意欲の向上、理解の深化をすることができた。課題や小テスト等も計画的に行うことができ、生徒の学習習慣の定着、基礎力向上につながっている。次年度は、今年度の取り組みをさらに発展させながら、応用力育成のためのグループ学習や習熟度別学習についても
			教科内で教材、指導法等について研究する。年間の指導計画に基づいて、週末課題や小テストを実施し、基礎力の定着を図る。 大学入試共通テストを意識した授業展開を検討する。 ①②③	A		
		上位層の育成を図る。	習熟度別指導やグループ学習と平日課外、土曜課外、個別指導等を活用し、応用力の養成に努める。 ①③④⑤	B		
	理科	基礎力の定着を図り、メリハリがありわかりやすい授業を展開する。	学習内容が関連して理解できるよう、わかりやすい授業を構成して実施する。さらに、小テストやレポート等を課し、普段の授業理解を確認する。 ①③	B	B	オンライン授業を含めてICT機器の活用による授業展開がスムーズに行われ、学習意欲を促すには十分であった。しかし、実験・観察等の部分でどうしても授業時間が不足するようにはできなかった。
			演示や考察を含めた実験、デジタル教材やアクティブラーニングなどを導入し、メリハリのある授業を展開する。 ①	A		
	英語	学力向上につながる授業・課題・課外を工夫するとともに、生徒が自学自習できるようなたらきかけをして、基礎力の定着・応用力の育成を図る。	ICTを活用し、アクティブラーニングとともに、自学自習においても、生徒が主体的に学習に取り組む姿勢を涵養する。 ①②③	A	A	少人数授業の効果的な活用法の再検討が必要になった。引き続き4技能の向上に努めるとともに、共通テスト対策を1年次より少しずつ取り入れ、備える。生徒の自主的な学習意欲の育成とともにリモートでの指導の充実を図るなど変化に柔軟に対応する。
少人数授業や課外授業を活用し、また個別指導においても、4技能強化を図るためのアウトプット活動を取り入れ、また習熟度別指導などを取り入れて学力向上を図る。 ②③④			B			
模試をはじめ、GTECや英検など外部検定試験に向けて指導体制を整え、成果が得られるようにする。 ④			A			
保健体育	基礎的運動能力、体力の向上を目指す。	持久走の単元を生かして、有酸素運動能力の向上を目指す。 ①②	A	A	体力テストの結果は昨年度を上回り、体力の向上が図れている。持久走の単元では、新たにペースを維持して走ることに主眼を置いた授業を全学年で展開し、体力の低い生徒も意義を感じられる授業となった。	
		体ほぐし及び身体づくりの運動を積極的に取り入れ、上肢と体幹の筋力、走力の向上を目指す。 ①②				
	主体的に体育・スポーツに関わる習慣を身につける。	運動と健康のつながりを理解させるとともに、選択授業の中で生徒主体の活動を促し、運動習慣の定着を図る。 ①②	B			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	芸術	芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、生涯にわたり芸術を愛好する心情を養う。	鑑賞の時間を充実させ、創造的な能力を高める表現の学習課題を工夫する。生徒の個性を重視した少人数指導により、個々の生徒の感性を伸ばす。①②	A	A	表現・鑑賞ともにICT機器を活用方法を模索し、より理解を深めたり、作品を味わえるようにする。
	家庭	これからの時代を生きる生徒が希望を持ち、たくましく、よりよく生きる力を身につけることを目指す。	生活に必要な知識、技術を身につけて自立し、異なる世代の人たちと共生する意識を養う。①③⑤⑨ 生活する上での様々な課題を主体的に理解させ、持続可能な社会をつくる一員としての意識を高める。①③⑤⑨	A	A	生活スキルの向上や持続可能な社会を作る一員としての意識向上につながるように、ICT機器を活用し、家庭での反転学習ができるような教材の製作に取り組む。
	情報	情報活用能力の向上を図る。コミュニケーション能力の向上を図る。	実習時間を確保し、情報活用能力やコミュニケーション能力の向上を図る。プログラミングを通してICT活用能力の向上を目指す。①②	B	B	携帯端末機器を活用するなど、感染症対策を十分に取ながら実施することができた。新学習指導要領へ向けた環境整備が課題である。
教務	授業の充実による学力向上	「わかる授業」を展開するために授業の工夫や指導体制の改善を行い、「校内相互授業参観」週間を充実させるなど、研修体制を整える。校外で行われる研修会へも積極的に参加するように促し、授業改善へとつなげる。①②	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍での学校教育活動の継続 ①ICT機器活用能力の育成や教職員自身のスキルアップ ②『Findアクティブラーナー』のさらなる活用(面談等にも活用) ・完全実施となる新学習指導要領の理念の体現 ①カリキュラムマネジメントの徹底とPDCAサイクルの充実 ②予測困難な時代の中、将来の学校像(ビジョン)の共有と体制づくり ・附属中開校にとまなう施設面の充実 ①面談場所やカウンセリングルーム(仮称)の確保 ②校内環境の整備 ・附属中学校も含めた広報活動 ①HPのさらなる整備 ②保護者・地域への積極的な情報発信。 	
	適切な教育課程の編成	次期学習指導要領を見据えた教育課程を編成する。令和4年度併設型附属中学校開校に向けて、積極的に小中学校への授業参観などを計画し、情報交換に努める。魅力ある学校作りを目指して、各教科や分掌との連携を今まで以上に図る。②	A			
	生徒個別面談の充実	業務の効率化をさらに推進し、面談時間を確保できるように支援する。⑦	A			
	入試広報活動の充実	学校内外の「学校説明会」の場を利用し、中学生・保護者の本校への興味・関心を高める。管理職や部長職以外の教員の中学校・塾訪問を今まで以上に推進し、本校の教育目標や活動について積極的な広報に努める。⑨	A			
	地域との連携を目指した広報活動	ホームページの充実と積極的な情報発信に努める。⑨	A			
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	服装・頭髪指導の徹底を図るとともに、時間を守ることができる生徒を育成する。⑥	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・交通ルール遵守を徹底するために、指導の行い方を再検討する。特に登下校時の自転車通学者のマナーについて近隣からの苦情があった。 ・頭髪や服装、携帯電話の使い方などのマナーについて、ある程度落ち着いてはいるが、今後も継続的な指導が必要である 	
	マナーの向上(交通・挨拶等)	交通マナーアップ運動や交通安全教室等を通して交通マナーの向上に努める。⑥	B			
		朝の登校立哨・あいさつ運動などを通してマナーの向上とコミュニケーションの充実を図る。⑥	B			
		スマートフォンの利用のルールを設定し、校内での使い方やSNSのトラブルに巻き込まれないよう注意を促す。⑥	A			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
進路指導	キャリア教育の推進と学力向上	年次と連携し、ブリティッシュヒルズ語学研修、大学出前授業、大学見学会、進路希望別ガイダンスなどの進路関係行事を実施する。また事前・事後指導の充実を図り、進路意識を高める。 ⑤	B	B ・キャリア教育のさらなる推進 →オンラインによる進路行事の検討、事前事後指導の充実 ・総合的な探究の時間を核にしたキャリア探究の検討 ・各種調査の有効活用 ・模擬試験・検定試験・共通テストの分析を通じた指導の改善とノウハウの継承 ・志望大学への合格率の向上 →生徒のキャリア形成にマッチした
		自主学習時間を記録することで自身の学習量を把握させるとともに、担任・教科担当者による意識づけを継続して行うことで、学習時間の確保・増加を促す。 ④	B	
		課外授業(平常・土曜・長期休業中)の充実、および模擬試験・検定試験の有効活用(データの分析から指導の改善)を図る。 ③	A	
	校内外の様々な企画(大学公開講座、サイエンスキャンプ、宿泊研修など)への積極的な参加を促す。また自身の活動履歴(ポートフォリオ)を継続的に構築させる。 ⑤	B		
進路情報の活用	新入試制度についての情報を収集・整理し、生徒・保護者・教員間で共有を図る。適宜、教員研修会を設けるとともに、生徒・保護者に対しては、HR・面談・集会・講演会・進路だよりなどで情報を提供していく。 ⑤	A		
特活指導	生徒会・委員会活動の充実	学校行事では、生徒会の自主的、自発的な活動を尊重し、生徒が自ら考え、計画立案ができるようにする。また、学校生活の充実と向上を図る活動も行う。 ⑧	B	B ・生徒会活動・委員会活動の活性化を図り、学校運営の中心を担えるようにしていく。 ・地域貢献を積極的に行う。 ・コロナ対策を十分に考えて学校行事を企画運営、日程調整していく。
		各種委員会では、校内活動を中心に、学校生活をよりよくするための活動を行う。 ⑧	B	
	ボランティア活動をととした社会参画	ボランティア活動をととして、他校や、地域の人々との交流を図り、地域の社会づくりに参画しながら、地域貢献を目指す。 ⑨	B	
	キャリアパスポートの活用	キャリアパスポートを積極的に活用し、キャリアプランニング能力を高める。 ⑧	B	
保健厚生	生徒の健康保持及び増進	熱中症や食中毒及びインフルエンザ等の感染症の予防対策を推進する。 ⑧	A	A ○カウンセリングについて ・家庭そして児童相談所や警察などの外部機関との情報共有は大切であるが、守秘義務があり、その対応の難しさを感じた。 ・昨年度ほど予約過多な状況ではなかったが、相談内容が非常に複雑で難しいものが多かった。そのような中で緊急性のある生徒の判断・対応をどのようにしていくか検討が必要である。 ・附属中開設に伴い保健室登校生徒対応のための居室確保、さらに2年後の養護教諭二人体制を考慮し、本館内にカウンセリングルームが確保される事を強く要望する。 ○校内美化について 清掃活動・ごみ分別等について引き続き注意喚起する。
		保健室来室者の現状を把握し、保護者・関係職員と連携し、健康回復を目指す。 ⑧	A	
		防火防災訓練を実施し、防災意識の向上を図る。 ⑧	A	
	教育環境の美化	清掃の徹底とごみの分別などの環境美化活動を推進する。 ⑧	B	
		空調機器の健康的かつ効率的な運用を図る。 ⑧	A	
	生徒厚生の充実	各種奨学金の周知及び申請事務等を迅速に行う。 ④	A	
		パン販売・自動販売機等の運営を円滑に行う。 ⑧	A	
	メンタルヘルスケアの充実	スクールカウンセリングを定期的実施し(年30回以上)、生徒及び保護者の精神的支援に努める。 ⑦	A	
		カウンセリング前後に関係者との連絡協議を行い、必要に応じて外部機関との連携を図る。 ⑦	A	
	特別支援体制の充実	学校生活上、特別な配慮を必要とする生徒に適切な支援を行う。 ⑦	A	
学校HPやSC通信活用して、特別支援者への理解と周知を図る。 ⑦		A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		hitsuyou
渉外	PTAの活性化を図る	本部役員を中心に会員全体が協力し、充実したPTA活動の実施に努める。 ⑨	B	B	「コロナ禍における新しい生活様式」に準えた「新しいPTA活動」ができるよう検討。
	各行事の充実	各行事等における保護者への積極的な呼びかけにより(HPの活用)、保護者の意識を高める。 ⑨	B		
図書	図書環境と出版物内容の充実	常時開放・常時閲覧。パソコンでの蔵書管理により新刊図書の紹介を円滑に行い、読書や探求学習を援助。センターホールの有効活用。済美の発行。 ⑤⑧⑨	A	A	図書館利用者・図書貸出の増加。購入図書を精選し、探求学習や進路選択に貢献できるよう取り組む。
第1年次	基本的な生活習慣の確立	学校生活の規律を徹底し、規則正しい生活が送れるようにする。 ⑥⑦	A	A	服装・頭髮の乱れはあまり見られず生徒の多くは規則正しい生活を送っている。スマホの利用については最低限のルール・マナーを守れない生徒への改善指導が必要である。
		個人面談等を通して生徒の生活状況を把握し、個に応じた生活指導を行う。 ⑥⑦	A		
	基礎学力の向上と学習意欲の向上	日々の授業を大切にす姿勢の徹底を図るとともに、学習記録表やclassiを利用して生徒の学習状況を年次全体で把握し、学力の向上を図る。 ①～④	B	B	英数国を中心に課題提出や小テストなどを実施することで、基礎学力の定着が見られるが、平常時の学習時間が少ないなど家庭での学習習慣が確立できていない生徒が多い。学習することの意義を理解させるための継続的な指導が必要である。
		家庭学習時間の少ない生徒には面談等を行い、学習意欲の喚起を図る。 ①～④	B		
		学習意欲や進路意識の高い生徒に向けた集会や学習会を実施し、学力上位層の育成を図る。 ①～④	B		
	適切な学習課題を設定し、予習復習の大切さを認識させ、家庭学習時間の確保を図る。 ①～④	B			
自己理解の深化と将来像の明確化	進路指導の中で自己理解の深化を図り、将来像を明確にする。 ⑤	B	B	LHR・年次集会・講演会等を通して、多くの生徒に進路意識の向上がみられるが、各クラスには卒業後の進路について、まだ意識の低い生徒もおり継続的な指導が必要である。	
	総合的な探究の時間(「道徳」)やLHRを計画的に進め、将来の進路実現に向けて考える機会を数多く作る。 ⑤⑧	B			
第2年次	個に応じた進路指導の徹底	個別面談により進路希望を把握するとともに個に応じた学習・進路指導を展開する。 ④⑤	A	B	個別面談を利用し自分の進路目標、将来について考えさせることができた。次年度は、受験に直結した課外等を実施することでより高い進路意識を持たせるようにしていきたい。
		学力に応じた課外授業や補習授業を展開することで、高い進路目標を設定させるようにする。 ④⑤	B		
	学習スタイルの深化	それぞれの学習状況を把握し、予習・授業・復習のサイクルを徹底させる。 ①～④	B	B	各教科で出される課題や小テストをしっかりとこなすことを通して学習スタイルが確立できた生徒は学力が向上している。ただ、家庭学習習慣が確立できていない生徒が少なくなく、家庭学習時間の絶対量は年間を通して多くなかった。今後、大学入試に向け主体的な学習ができるように継続的な指導が必要である。
		成績中上位層に応じた学習指導を行い、学力を向上させる。 ①～④	B		
		成績下位層の生徒や学習時間の少ない生徒に対して、学習意欲の高揚を計る。 ①～④	B		
課題や小テストを課すことで、主体的に学習する時間を確保する。 ①～④	B				
自律ある学校生活の育成	2年次として後輩の規範となるべく自覚を促し、学校行事やHR・生徒会・各種委員会活動に積極的に参加させる。 ⑧	B	B	多くの学校行事が中止となる中、クラスや年次としての一体感を十分に作る事ができなかった。それでも、部活動に一生懸命に取り組み後輩の規範となっている生徒も多数いた。	
	保護者との緊密な連帯を図り、それぞれの進路実現に向けて生活習慣を再構築させる。 ⑨	B			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
第3年次	進路希望の実現を目指した進路指導の徹底	個人面談を通して、生徒一人ひとりが抱えている課題を把握しながら、最後まであきらめない指導を展開する。 ④⑦	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響による授業進度の大幅な遅れを取り戻すのが困難だった。 ・夏休み以降、家庭学習の時間や内容の把握が十分にできなかった。教科指導にも関わることなので、データとして見える化し、共有しやすい形にする必要がある。 ・共通テストの難化に伴い、思ったように得点がとれなかった生徒が多かったものの、最後まで諦めない指導により、多くの生徒が国公立大学に出願することができた。 	
		学習状況を把握し、計画的・主体的な学習スタイルの確立を目指す。 ①③	B		
		生徒それぞれの学力を把握し、それぞれの層にあった課外や個別指導、進路行事を効果的に行い、学力の向上を促す。 ②④	B		
		教員間での情報共有に努め、目標を合わせる。志望校分析会を行い、年次全体で生徒を見ていく姿勢で対応する。 ⑤	B		
		保護者への進路情報の提供を密に行い、進路希望実現に向け、連携を深める。 ④⑨	B		
	自律ある学校生活の育成	最終年次としての誇りと責任感を自覚し、学校行事への積極的な参加やHR活動や部活動の充実を図る。 ⑥⑦⑧	B		<ul style="list-style-type: none"> ・服装・頭髪・生活習慣の面において指導を要する生徒が若干名いた。生徒が最高学年の自覚をもって自律した生活をするための指導を徹底する必要があった。 ・転学者2名、単位未修得者2名等、学校に適應できない生徒への対応が必要であった。
		生活習慣の見直しを常に考えさせ、受験生であるからこそその規律ある生活リズムの大切さを意識させる。 ⑥⑦	B		
面談や情報交換から、生徒の問題行動や悩みなどの早期発見を心がけ、関係各部と連携し解決を図る。 ⑦		A			

※評価基準 A:十分達成できた(達成度80%以上) B:概ね達成できた(達成度60~79%) C:やや不十分(達成度40~59%) D:全く不十分(達成度39%以下)